

【特集】

第9回神戸大学 ICT フォーラム開催報告

e-learning をどう使うのか？－全学的授業支援システムの導入に向けて－

神戸大学 情報基盤センター

情報基盤センターでは、2014年4月4日に、第9回神戸大学 ICT フォーラム「e-learning をどう使うのか？－全学的授業支援システムの導入に向けて－」を滝川記念学術交流館で開催しました。学内外の教職員、ICT 関連企業関係者など、約 110 名が参加し、関心の高さが伺われました。

プログラム前半は、全学の e-learning 学修支援システム「Moodle」に先進的に取り組んでいる富山大学と三重大学の担当教授にご講演いただきました。木原寛 前富山大学総合情報基盤センター教授に「富山大学での Moodle の利用について」、奥村晴彦 三重大学教育学部教授・学長補佐には「三重大学 Moodle の8年間」をご講演いただきました。ご講演では、両大学での Moodle 導入の経緯や、運用体制、利用推進や利用者への対応など様々な活用事例を交えたご紹介があり、学修支援システムの活用・運用について、示唆にとんだお話をいただきました。これらのご講演についての詳しい内容は、講演者の方々のご好意により抄録として掲載させていただきました。



木原教授(左)と奥村教授(右)

プログラム後半は、フリーセッション ICTea Time 「Moodle を触ってみよう」と題し、実際にパソコンやタブレットを用いて Moodle を活用した授業のデモンストレーションや利用方法の説明・体験と、講演いただいた先生を交えての意見交換を行いました。

「Moodle を触ってみよう」では、江木啓訓情報基盤センター准教授を講師に、参加者の持参したノートPCやタブレット端末で、情報基盤センターで学修支援システムとして準備を進めている Moodle をもちいて授業体験や授業活用の方法等を実際に体験していただき、その後活発な意見交換が行われました。

フォーラム開催に当たり、学内外の様々な方々のご協力を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

(上)満員の講演会場
(下)ICTea Time の会場